

令和3年度 下野市立石橋中学校第3回学校運営協議会議事録

令和4年1月13日(木)
13:30～ 於：石橋中学校会議室
記録 秋山

参加者（敬称略）

学校運営協議会委員

藤沢 修一（委員長）、青木 正憲（副委員長）、池上 行雄、大塩 宗里、柏崎 松美、中川 賢一、山口 容子、田熊 利光（校長）

事務局

齋藤佳代子（教頭）、秋山 実（教務主任）、武井 一浩（生徒指導主事）、矢口 裕子（事務長）

1 開会

2 校長挨拶

- ・オミクロン株が猛威を振るっているが、これからのことを考えて気を引き締めてやっていく。
- ・12月に生徒会役員が新入生学校説明会用に制作した学校紹介ビデオをご覧いただき総括に代えさせていただきます。このビデオは、生徒会役員がタブレットを利用して制作しました。（ビデオ視聴）

3 一年間を振り返り

（1）心の教育について

①「時を守り、場を清め、礼を正す」について

- ・時間厳守はほとんどできている。
- ・自分たちで自転車、靴をそろえる等できている。
- ・自問清掃もしっかりできていて、自分の分担以外に他の分担を手伝う生徒もいる。
- ・挨拶強調週間をもうけ、クラスで一番よい挨拶をしている生徒を表彰した。PTA生活安全部の方からも立哨指導時に生徒からよい挨拶をしてもらった等の報告を受けた。

②「ローテーション道徳」について

- ・担任以外の先生の道徳を生徒も楽しみにしている。

③「学び合いを通して認め合う関係」について

- ・生徒主体の行事を通して上級生を見て下級生が育っている。
- ・感動を引き継ぎよい循環となっている。
- ・いじめアンケートを3回実施、生活ノート等を通していじめの早期発見に努めている。
- ・現在、不登校が一番大きな問題。20日以上欠席者は53名。
- ・コロナ禍でもあり今は各家庭とも無理をさせないことも影響。
- ・他機関との連携も図っている。現在スマイル教室通級者は、17名。
- ・学校で別室登校も認め別室登校する生徒も増えた。10名前後の利用者がいる。今後も増えると思われるので場所を検討中。

（2）生徒の安全について

①スケアードストレートの実施による交通安全の意識付け。

②避難訓練。学校独自の計画とJアラートを利用した訓練等。

③ネットの使い方について

- ・「4つの大丈夫」を長期休業のしおりに掲載
- ・生徒が自分でできることをやってきた。

（3）地域連携について

①グリムの装飾、みこし、盆踊り

- ・コロナで2年中止になったが、今まで参加していたときには、地域に温かく迎えられる。

②外部講師

- ・コロナで講師を呼ぶのは難しい状況だが、特別支援学級では、ストラップ作り、飾り作りなどでお世話になった。
- ・リモートであったが、人権講話にも来ていただいた。
- ・更生保護女性会には花壇の清掃を、学校ボランティアにはアトリウムの清掃や校舎内の消毒作業をしていただいた。
- ・消毒に関しては、2月に抗菌コートをしてもらえることになった。
- ・コロナ禍でもできることを考え活動してきた。

（4）学校評価アンケートについて

- ・昨年度よりも全体的に生徒、保護者、教職員とも高い評価になっている。

4 学校の活動、学校評価を振り返り

中 川	<ul style="list-style-type: none"> ぐるぐるノートの取り組みはすばらしい。2冊ではなく倍あってもいいくらい。担任がコメントを返しているのがとてもいい。先生方の負担にならなければぜひ、続けてほしい取り組み。 人権講話に来たときも生徒会役員が気軽に話しかけてくれていろいろ話をできてよかった。
藤 沢	<ul style="list-style-type: none"> 不登校は県でも問題視されている。これからも増加が考えられる。小学校でも学習に不安があるとすぐ不登校になっている。地域の行事とかもなくなり、生徒を見ることができないが、学校行事を見た方からは、すごくよかったと聞いている。
柏 崎	<ul style="list-style-type: none"> 運動会の解散式。真剣さが伝わり本当に感動的でした。 生徒のために何ができるのかを考えるきっかけになりました。
大 塩	<ul style="list-style-type: none"> 安心安全会議でも学校にどう協力できるかが課題になっている。 シャボネットの配布をしているが少しでも助けになれば。 情報先の取り扱いについての講習会もあるのでぜひ利用していただければ。 道徳教育の充実について、他国に比べてコロナウィルスの感染者が少ないのは、日本人の道徳性が関係しているのでは。石中も情操教育がしっかりしていることで生徒と先生がよい関係になっているのでは。知・徳・体のバランスがよいのではないかと思う。
山 口	<ul style="list-style-type: none"> 「将来についてよく考えているのか」の数字が低いのが気になる。これからを考えると、もっと意識を高めなければならない。好きなものを仕事にしたり、好きなことに力を注いだりしていけば学びに発展するのでは。もっと現実的に将来について考えさせたい。
池 上	<ul style="list-style-type: none"> 職場体験に来る生徒と話をすると、親の仕事の内容をわからない生徒が多い。2, 3年になると職業に対する意識も高まる。昔の生徒よりも今の方が情報を得るのが早く、考えているのではないかと思う。
高 野	<ul style="list-style-type: none"> ぐるぐるノートはぜひ見てみたい。地域の行事がなくなり地域との絆はどうなるのか心配。下野市の音楽祭もぜひ来年度はあってほしいと思う。
青 木	<ul style="list-style-type: none"> ビデオは生徒が作ったというのが、生徒が生徒を見て何かを学ぶという形が浸透している証だと思う。 授業を大切にしている。わからないときには友人にすぐ聞ける環境が大切。社会に出ても協力しながら何かをなしていく経験は貴重。 地域の行事は減っているが、代わりになるものが学校でもできればと思う。 4つの大丈夫とは具体的にどのようなことなのでしょう
武 井	<ul style="list-style-type: none"> インターネットの使い方について <ol style="list-style-type: none"> ①時間（この時間で） ②内容（この内容で） ③相手（信用できるか） ④困ったとき（大人に相談）の4つのこと
青 木 柏 崎	<ul style="list-style-type: none"> ネットについての啓発講習は1回だけでなく毎年聞くことが大切。啓発は継続が大事。 交通に関する評価が大人と中学生で違う。大人は危ないと思っても中学生は大丈夫だと考えている。壬生に大型店ができる計画があるので、今後、道路事情が変化する。交通量も増えるので、事故等の心配も増える。生徒の意識をもっともっと高めていかないといけない。
藤 沢	<ul style="list-style-type: none"> 地域でも声を上げて信号設置などの許可を取るなど地域としてやれることをやる必要がある。学校区として道路状況も考えないと。
中 川	<ul style="list-style-type: none"> SNSの使い方については、その危険性を体にしみこむまで話をした方がよい。自分のこととして捉えないとわからない。
西 本	<ul style="list-style-type: none"> 石中学区でも「運営協議会のメンバーが一度全体で集まれば」とある小学校の校長先生に言われた。ボランティア募集も石中学区として募集することになった。北小の学区では、大型店やスマートインターの設立などで道路が心配、細谷小では、学童保育がないので、先生が放課後学級という形で対応している、いろいろな課題を話し合う場を中学校を中心としてすすめてほしい。不登校についても小学校前から不安があり、幼保小中の連携が必要。

5 閉会